

部落解放運動の再構築と再生にむけた声明

2025 年 8 月 6 日

部落解放同盟大分県連合会

部落解放同盟大分県連合会は、今年 2 月に表面化した「大分市官製談合事件」に関して、8 月 5 日開催の県連第 53 期定期大会において、「大分市官製談合問題について」という議案で清田委員長自らが、今後の方向性を提案しました。

その中で「7 月 3 日、大分地裁は大分支部長だった早川被告に対して、懲役 2 年、執行猶予 3 年の判決を言い渡しました。この事件は早川被告が大分市幹部職員と共謀し、入札情報を漏えいさせたものではあるが、その統括責任は部落解放同盟大分県連合会執行委員長にある」ということで、「委員長辞任」を提案しました。しかしながら、各支部からは「清田委員長指導の下、県連、各支部が団結して、組織の立て直しをすべきである」という意見が続出する状況で、「この厳しい難局を清田委員長と共に再建し、闘争していく」方向を全会一致で確認しました。

水平社の先達は、「人間を勲（いたわ）るべきでない、尊敬すべきものである」という水平社宣言の理念の下、官憲の苛烈な弾圧に屈することなく、自己犠牲と大衆に献身する解放運動を確立しました。こうした闘いが被差別部落民のみでなく、多くの人々の共感、信頼、連帯を勝ち取り、解放運動を大きく前進させてきました。

今、部落解放同盟大分県連の社会的信用を回復するためには、自らを糺し、理想を説くのみでなく、自らの生活と行動を通して、それを実証しなければなりません。このことを全同盟員一人ひとりが強く肝に銘じることが重要であります。

差別を許さない、人権が守られる社会は、すべての人にとって生きやすい社会です。「部落の完全解放、人権確立社会」の実現に向かって総力をあげるこそが使命です。そこに部落解放同盟大分県連合会の信頼回復と再生の道があることを胸に刻むところであります。

今こそ、信頼の再構築と再生へ向けて、暴力及びその力を背景にする者の徹底した排除とエセ同和行為の根絶、行政をはじめ差別撤廃・人権確立への思いを抱く県民の皆さんとの新たな関係の構築に不退転の決意で取り組むものであります。

今後とも、部落解放同盟大分県連の部落解放・人権確立への歩みにご支援・ご協力をしていただくことを祈念いたします。